

「現在の幸福感を超えて遠くに夢を」（レジメ）

1、「桐島部活やめるってよ」の世界

恋愛が最大唯一、個人の心理、カプセルの世界描写。

青春は、欲求不満で世の中の矛盾に出会う時期。「二人のために世界はある」のではなく、世界はどうしようもなくある。そして「君と世界との戦いにおいてはあるべき世界を支援せよ」

2、ネット社会の盲点

利己性の増幅、現実から逃げる、表現力の減退など指摘されている。

目先ごとのやりとり。目標や将来が語られない。

パソコンは機械的二進法。複雑、微妙、含蓄の捨象。言語能力の未発達の大危険

3、現代の幸福感

生きているあいだの物欲充足。未来、死後のことを考えない「日だまりの蠅の幸福」（ニーチェ）。

——この幸福感は人類史上異例の低俗さ。あぶく銭は身を滅ぼす（裁判例から）。

経済は移ろう、戦後の会社の興廃、大樹は枯れる。損得で職を選ばず、自分の素質に依存すべし。

4、人生は、縁＝限りなき広がりとの関係

大相撲の史上最速出世の関取遠藤は語る——「人に支えられ、支えられて、今日まで来た」。

仏教の空の思想。空とはすべて事柄は関係、縁起で成り立っていて、実体そのものはないという考え。古代都市文明以来の人類の普遍思想というものがある。

現代科学も、人類はひとつ、生命はひとつから始まることを究明。すべての生物は繋がっている。ホモサピエンスが生き残ったのは助け合いの仕組みがあったためとくに言葉をもったこと。

日本では、3. 11で絆という言葉が復活。

私の体験——若き日、政治弾圧（資料、東京弁護士会百年史）を受けたことで、人間同士の根底の繋がりを体得。

すべて肝心なことは逆境で得られる。東北大震災での高校生の発想——「1000年後の命を守る」。

貧乏、失恋など悪くない経験。恵まれた人は悟ることに苦労する。

5、遠くに理想を求めるとき、自己が生きる

人は死後も人々に思い出、影響を残す。精神的遺産の永続性。優れた芸術、科学、技術。森林大国をつくった日本の農民。「植林するのは子孫のため、だが神のため」（古代ローマ）

縁起を広げて考えるとき理想は高くなる。——ベートーヴェンの第九人類皆兄弟。カントが崇高と呼んだもの——「天空に輝く星々とわが内なる良心」。桂三枝師匠が落語家の道を選んだ背景。

バッハの目ざした窮極の境地、全楽譜に記された「神の栄光」

すぐに役立つことではなく、大いなる存在に気づいたとき、可能性は開け大望が実る。

Boys & Girls be ambitious!